

科目 ナンバー	10SE301、 05HS301	対象学科・ コース	経済学部	専門・総合・教職	専門科目
				配当学年	3年以上
主 学 科	経済学部	要 件	必修科目	授業区分	
授 業 科 目 名	専門ゼミ I			担当形態	単独
	Seminar on Specialized Subjects I			担当教員	河田 正樹
開 講 期	通年	単位数	4単位	オフィスアワー(常勤教員のみ)	

添付ファイル

② 授業方法

■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ その他

③ 授業形態

■ 対面 □ ハイフレックス □ オンライン □ オンデマンド

④ 授業のテーマ及び到達目標

このゼミでは『経済分析と統計的方法』についての研究をおこないます。
 経済諸現象の背後にはさまざまな因果関係が存在しています。この因果関係について一歩踏み込んで数量的に把握しようとする場合、統計データを用いて、統計的方法による分析(実証分析)をおこなうことが必要となります。
 このゼミでは、周南地域に関連したテーマを設定し、分析をおこなうことで、統計分析の手法、分析結果の解釈の方法を学んでいきます。

【到達目標】

① 設定したテーマについて、主体的に取り組むことができる。
 ② 設定したテーマについて、十分な知識を得ることができる。
 ③ 設定したテーマについて、解決のヒントとなる考察をおこなうことができる。

⑤ 授業の概要

周南地域に関するテーマを設定するため、各自の関心にもとづき、周南地域について調べていきます。
 そのうえで、ゼミ全体で取り組むテーマを設定し、各自が分担した内容について、調べて分析をおこない、発表していきます。
 ゼミを進める上で、統計学とコンピュータに関する基本的な知識が必要です。このゼミを希望する者は、講義科目『統計学基礎』を既に履修済みか3年次までに履修し、『計量経済学』を3年次または4年次に履修することが必要です。

⑥ 対応するディプロマ・ポリシー（専門科目のみ）

- 知識及び技能の習得
- 思考力・判断力・表現力等の養成
- 主体性・多様性・協調性の養成
- 地域貢献に関する意識の醸成

https://www.shunan-u.ac.jp/faculty/diploma_curriculum_policy/

⑦ 教科書

書籍無し

⑧ 参考図書

書籍無し

⑨ 履修上の注意	【先修条件科目 必須】	統計学基礎、データサイエンス入門
	【先修条件科目 推奨】	中級統計学
	【持参物】	
	【その他】	

⑩ 評価基準

① 主体性 ② 知識 ③ 考察 について、「学生に対する評価」の内容で評価します。
 「その他」は3年時のまとめとなる研究成果を通して評価します

⑪ 学生に対する評価

試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
			50%		50%	100%

⑫ 担当教員からのメッセージ（予習・復習内容・時間にも言及）

厳しく、そして楽しいゼミを一緒に作っていきましょう！

【予習・復習について】
 予習…発表のための準備をしてくること。
 復習…発表の際に指摘されたことを修正し、理解を深めること。
 ※ 予習・復習合わせて90分程度行うことになります。

⑬ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業方法	担当教員
1	ガイダンス ゼミとはどのようなものか アイスブレイク	講義 演習	河田 正樹
2	発表の準備(1) PowerPointの使い方 データの所在の確認	講義 演習	河田 正樹
3	発表の準備(2) 周南市のデータ分析に関する先行研究紹介 参考文献の入手方法	講義 演習	河田 正樹
4	プロジェクト研究(1) 役割分担 データ分析の方法を学ぶ	講義 演習	河田 正樹
5	プロジェクト研究(2) データ分析の進捗状況報告 ディスカッション	講義 演習	河田 正樹
6	プロジェクト研究(3) データ分析の進捗状況報告 ディスカッション	講義 演習	河田 正樹
7	プロジェクト研究(4) データ分析の進捗状況報告 ディスカッション	講義 演習	河田 正樹
8	プロジェクト研究(5) 分析結果の中間まとめ 視覚化の試み	講義 演習	河田 正樹
9	プロジェクト研究(6) 視覚化されたものについての考察 ディスカッション	講義 演習	河田 正樹
10	プロジェクト研究(7) データ分析の進捗状況報告 ディスカッション	講義 演習	河田 正樹
11	プロジェクト研究(8) 中間報告スライド作成準備	講義 演習	河田 正樹
12	プロジェクト研究(9) 中間報告スライドの改良 報告書作成準備	講義 演習	河田 正樹
13	プロジェクト研究(10) 中間報告スライドの改良 報告書の進捗状況報告	講義 演習	河田 正樹
14	プロジェクト研究(11) 中間報告会	講義 演習	河田 正樹
15	プロジェクト研究(11) 中間報告会のふりかえり 報告書完成に向けての計画策定	講義 演習	河田 正樹
16	後期研究計画について プロジェクト研究をふまえた、後期研究計画の発表	講義 演習	河田 正樹
17	個人研究発表(1) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
18	個人研究発表(2) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
19	個人研究発表(3) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
20	個人研究発表(4) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
21	個人研究発表(5) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
22	個人研究発表(6) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
23	個人研究発表(7) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
24	個人研究発表(8) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
25	個人研究発表(9) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
26	個人研究発表(10) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
27	個人研究発表(11) 各自の研究発表	講義 演習	河田 正樹
28	卒論構想発表(1)	講義 演習	河田 正樹
29	卒論構想発表(2)	講義 演習	河田 正樹
30	研究発表会	講義 演習	河田 正樹

⑭ 科目等履修制度

- ☐ 科目等履修生(学生以外の一般履修者 若干名)を受け入れてもよい。
- ☒ 科目等履修生を受け入れることはできない。

⑮ 実務家教員担当科目に関する記載

科目 ナンバ	10SE301、 05HS301	対象学科・ コース	福祉情報学部	専門・総合・教職	専門科目
				配当学年	3年以上
主 学 科	福祉情報学部	要 件	必修科目	授業区分	
授 業 科 目 名	専門ゼミ I			担当形態	単独
	Seminar on Specialized Subjects I			担当教員	児玉 満
開 講 期	通年	単位数	4単位	オフィスアワー(常勤教員のみ)	

添付ファイル

② 授業方法

☒ 講義
☒ 演習
☐ 実技
☒ その他

③ 授業形態

☒ 対面
☐ ハイフレックス
☐ オンライン
☐ オンデマンド

④ 授業のテーマ及び到達目標

最終的には、卒業研究として成果をあげることにあります。教育目標では[1]「主体性を持った意欲ある人材」、[3]「現実的な知識と手法を備え、問題解決能力を持った人材」を育成することを実践を通じて達成するための授業科目です。

(i) 専門性にかかる知識もしくは技術の習得

(ii) 専門性にかかる調査演習とまとめる力、発表する力の修得

(iii) 問題を見つけ出す力の獲得

⑤ 授業の概要

Society 5.0の実現に向けた社会で、こういった所や場面でICT（情報通信技術）やIoT、AIなどの情報技術が活用できるかについて、コンピュータを用いた実習や文献調査を通じて考えてもらいます。また、実際に体験したり、自分でシステムを構築またはプログラミングを通して理解を深めます。

⑥ 対応するディプロマ・ポリシー（専門科目のみ）

☒ 知識及び技能の習得
☐ 思考力・判断力・表現力等の養成
☒ 主体性・多様性・協調性の養成
☐ 地域貢献に関する意識の醸成

https://www.shunan-u.ac.jp/faculty/diploma_curriculum_policy/

⑦ 教科書

書籍無し

⑧ 参考図書

1冊目

書籍名	ITナビゲーター2023年版	発行年	2022 年
著作者名	ICTメディアコンサルティング部	出版社	東洋経済新報社
金額(税込)	2,860 円	I S B N	978-4-4925-0337-9
学内販売	なし		

⑨ 履修上の注意	【先修条件科目 必須】	
	【先修条件科目 推奨】	
	【持参物】	ノートパソコン
	【その他】	なし

⑩ 評価基準

(i) 専門性にかかる知識もしくは技術の習得 (ii) 専門性にかかる調査演習とまとめる力、発表する力の修得 (iii) 問題を見つけ出す力の獲得

上記、(i)～(iii)に関する理解度をレポート40%、実技40%、ポートフォリオ20%で評価する。

⑪ 学生に対する評価

試験	小テスト	レポート	発表・実技	ポートフォリオ	その他	合計
		40%	40%	20%		100%

⑫ 担当教員からのメッセージ（予習・復習内容・時間にも言及）

ゼミに参加するには、学び究める意欲が前提です。日常の自らの取り組みがなければ、自ずと発表内容に現れてしまうものです。評価は各人の努力にかかっています。

また、本授業を受講するにあたり、あらかじめ調査および資料等に目を通しておくこと（予習60分程度）、授業後には授業で学んだことを確認し、研究に取り組んでください（復習60分程度）。

⑬ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業方法	担当教員
1	オリエンテーション、自己紹介	講義 その他	児玉 満
2	研究の進め方	講義 演習 その他	児玉 満
3～4	論文・レポートの書き方	講義 演習 その他	児玉 満
5	研究テーマの決定方法	講義 演習 その他	児玉 満
6	研究テーマに関するディスカッション	講義 演習 その他	児玉 満
7～9	ICTと社会の関わりに関する調査	講義 演習 その他	児玉 満
10～11	調査結果の整理・分析方法	講義 演習 その他	児玉 満
12～14	研究レポートのまとめ方	講義 演習 その他	児玉 満
15	前期のまとめ	講義 演習 その他	児玉 満
16～21	研究成果の中間報告・ディスカッション	講義 演習 その他	児玉 満
22～23	プレゼンテーションの技法	講義 演習 その他	児玉 満
24～26	研究レポートの作成	講義 演習 その他	児玉 満
27	研究レポートの報告準備	講義 演習 その他	児玉 満
28～29	研究成果の報告・ディスカッション	講義 演習 その他	児玉 満
30	来年度の卒業研究に向けて	講義 演習 その他	児玉 満
⑭ 科目等履修制度			
☐ 科目等履修生(学生以外の一般履修者 若干名)を受け入れてもよい。 ☒ 科目等履修生を受け入れることはできない。			
⑮ 実務家教員担当科目に関する記載			